

風鈴おどり 長崎県

むかし、あるところに、権助ごんすけという男が、おかみさんといっしょに住すんでいました。貧乏びんぼうで、師走しわすになつても、おもちをつくこともできませんでした。

そこで、おかみさんは、お寺に出かけて行つて、

「鉦かねと太鼓たいこを、ちよつと貸かしていただけませんか」とたのみました。すると、小僧こぞうさんが、

「和尚おしょうさんは今留守るすだから、だまつて貸すわけにはいきません」とことわりました。おかみさんは、

「和尚さんが帰るまでに返しますから」といつて、一生懸命いっしょうけんめいたのみました。小僧さんも、

「せつかく来たんだから」と思つて、貸してやりました。

おかみさんが、うちにもどると、権助は、おかみさんといっしょに通りに出て、鉦や太鼓をたたきながらおどりはじめました。権助が、

「今年の 年は」と歌うと、おかみさんが、

「風鈴ふつて ふり殺ころせ」と歌います。

権助が、鉦を、「ちりんこ ちんちん」と打うつと、おかみさんが、太鼓を「ぼうと ぼと」とたたきます。おもしろがつて、たくさんの人が集まつて来ました。

そのうち、和尚さんがお寺に帰るころになつても、鉦や太鼓を返しに来ないので、小僧さんは心配しんぱいになつて取り返しに行きました。けれども、権助もおかみさんもしません。ほうぼう探さがしまわっていると、通りで、ふたりがおどっていました。見ているうちに小僧さんもおもしろくなつて、

「権助どん 権助どん。和尚さんの太鼓 返せつておっしゃるわいの」と、拍子ひょうしをとつておどりました。

お寺では、和尚さんが帰ってきましたが、鉦も太鼓もなくて小僧さんもしません。和尚さんは、探しに行きました。すると、通りで、黒山のような人ばかりです。見物けんぶつの人たちの中で、三人がおどっていました。

「今年の 年は」

「風鈴ふつて ふり殺せ」

「ちりんこ ちんちん」

「ぼうと ぼと」

「権助どん 権助どん。和尚さんの太鼓 返せつておっしゃるわいの」

和尚さんは、これを見て、

「小僧が来んのも もつともじゃ。小僧が来んのも もつともじゃ」と、おどりだしました。
見物の人たちはよろこんで、お金をたくさん投^なげてくれました。そこで、権助は、いいお正月
を迎^{むか}えることができましたとき。
おしまい

村上郁再話

資料『島原半島民話集』關敬吾編／建設社